A. H. Pollard, et. al., *Demographic Techniques*, Pergamon Press (Australia), Rushcutters Bay, 1974, viii+161 pp.

人口統計データの整理分析の方法の基本を修得しようとする学徒にとって，P. R. Cox の *Demography*（初版 1950），M. Spiegelman の *Introduction to Demography*（1955），G. W. Barclay の *Techniques of Population Analysis*（1958）は，国連の Population Studies Series の中で刊行されたいくつかの類書と共に，1950～60年代を通じて必読の入門書であった．それらに加えて，特に日本の人口学徒にとっては，1960年刊行の舘　稔著『形式人口学—人口分析の方法—』が有益な指導書として役立ったことはいうまでもない．

1971年になって H. S. Shryock その他による *The Methods and Materials of Demography* という上下2巻あわせて900余ページに及ぶ大著が刊行された．これは新しい知見もとり入れて人口分析方法のほとんどあらゆる分野を網羅し，しかも詳細かつ平易に解説したまことに有用なハンドブックとして，人口学徒にとっては欠かせない座右の書となった．また，原著フランス語版の初版年次は1961年にさかのぼるが，1969年版の増補部分を含めた R. Pressat の *L'analyse Démographique* の英訳版 *Demographic Analysis* が1972年に刊行され，フランスのデモグラフィの色濃いこの書物が世界的に広く紹介された．1974年には J. W. Linger の *A Handbook for Population Analysis, Part A: Basic Methods and Measures* が出た．また，そのほか，国連人口研究シリーズの中で Manual IV として親しまれている *Methods of Estimating Basic Demographic Measures from Incomplete Data*（1967）や N. Keyfitz の *Introduction to the Mathematics of Population*（1968），また小冊子だが B. Benjamin の *Demographic Analysis*（1968）が，いずれも1960年代後半に刊行されている．

さて，人口の統計的分析方法を学ぶ者にとって，上にあげた書物は有用なものであるが，教える立場からしても，また自学自習する立場からしても，演習問題とその解答という形式で編成したテキストブックもまたその出現が長年のぞまれてきたところである．この形式の書物が近年数種類刊行された．そのうちの一つにフランス語版（1966）からの英訳として出た R. Pressat の *A Workbook in Demography*（1974）がある．この書評で取り上げようとするのはもう一つの類書でやはり同じく1974年の刊行である．

本書は12章からなり，章1　人口統計の出所，章2　人口学的基本指標，章3　生命表，章4　静止人口モデルの応用，章5　死亡，章6　出生，章7　安定人口・安定人口モデル，章8　人口推計・人口予測，章9　人口学的標本調査，章10　多重脱退残存表，章11　人口統計データの正確性のテスト，章12　不完全なデータからの人口学的指標の推計となっていて，一応包括範囲は十分である．程度は入門書的であって，比較的短期間に人口分析方法の基礎を習得したい向には，至極手頃であろう．各章は解説のあとに，設問と解答のデモンストレーションがあり，章末に10問内外の練習問題がかかげてある．

実際のデータで人口の統計的分析を行なう場合に，その基礎データの正確性や入手されている時点のあり方や年齢階級のくくり方などから来る制限によって，初心者はしばしば困難に逢着する．本格的な分析作業に入る前のデータの補整や補正をどうするかが，実は最初の肝腎なテクニックであるが，これに関する懇切丁寧な参考書が意外に乏しい．本書もまた，そういう局面を習得したい人の満足は得られそうにない．

また，人口分析方法に関する多くの書物において，往々にして軽く扱われているのは結婚の統計的分析，特に結婚の動態分析の方法であるが，この点についても本書もまたきわめて簡単な言及にとどめている．結婚の分析方法については，それにかなりのスペースをさいている前述の Pressat の *A Workbook in Demography* が参考になるように思われる．人口分析の実際は，扱うデータ次第で柔軟に対処しなければならないので，数種類のそれぞれ特色を異にするテキストブックを参照する必要があろう．　（小林　和正）